

# 令和5年度第4回佐倉市健やかまちづくり推進委員会会議要録

令和6年2月9日（金）

健康管理センター3階 大会議室

13:00～14:00

## <出席者>

佐藤仁委員・秀島潔委員・川島重信委員・萬谷良子委員・西口元委員・鈴木卓也委員・渡辺幸恵委員・金子拓也委員・川崎美代子委員・実川勝委員・大野直道委員・永山恵美子委員

## <事務局>

細井薫健康推進部長、辻口美佐枝健康推進課長、  
佐久間友紀主査（総務企画班長）、江原拓斗主事（総務企画班）、仲川李奈主事（総務企画班）  
池澤優子副主幹（成人保健班長）、福井幸恵副主幹（成人保健班）、中川理恵主査（成人保健班）、  
福田幸子主査（成人保健班）、上條友美主査補（成人保健班）、浅沼愛弥保健師（成人保健班）、  
後藤壮也主査（健診班長）、西村仁雅主査（健診班）

豊福啓子母子保健課長

緑川由佳副主幹（母子保健班長）、吉山博美副主幹（西部地域班長）、領家玲子主査補（予防接種班）

## <傍聴人>

なし

### 1. 開会・部長挨拶

開会后、健康推進部長よりあいさつをしました。

### 2. 委員自己紹介

委嘱後、初めての会議のため、委員より自己紹介を行いました。

### 3. 会長・副会長の選出

佐倉市健やかまちづくり推進委員会条例第5条の規定により、会長及び副会長の選出を行いました。

佐藤委員が会長に、秀島委員が副会長に推薦され、委員の賛成多数により選出されました。

#### **4. 会議の成立・傍聴規定について**

佐倉市健やかまちづくり推進委員会条例第6条2項の規定により、会議は委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない旨を説明しました。今回の会議では、14名の委員中12名と過半数が出席しておりますので、会議は成立となりました。

また、佐倉市情報公開条例第20条に基づき、協議会等の会議については公開を原則としている旨の説明を行いました。

なお、議事録については、「会議録の作成等に関する要領」に基づき、要録として事務局が作成する旨の説明を行いました。

#### **5. 佐倉市健やかまちづくり推進委員会の役割について**

事務局より、委員会は市民の健康づくり事業の円滑かつ効率的な推進を図るとともに、健やかなまちづくりのための健康増進計画（住民の健康の増進の推進に関する施策についての計画）を定めるために設置されていることの説明を行いました。

また、所掌事務として、（1）健康増進計画の策定及び変更に関して意見を述べること。（2）健康増進計画に関する事業の進行管理及び評価に関すること。（3）その他市民の健康増進に関すること。とされていることを説明しました。

#### **6. 佐倉市健康増進計画「健康さくら21（第3次）」（案）及び今後のスケジュールについて**

事務局より、以下の説明を行いました。

- ①計画策定の背景について
- ②計画の概要
- ③基本目標について
- ④基本方針について
- ⑤計画の体系について
- ⑥今後の計画策定スケジュールについて

## <質疑応答>

(委員) 様々な企業が SDGs の項目に基づいて計画を立てていると思うが、国連が提唱している考えであり私たちがそこまで考える必要があるのか。

また、健康格差の縮小ということで、格差を縮小するためには、健康な人の状態が悪化する場合と不健康な人の状態が改善される場合の 2 つの方法がある。健康な人の状態を悪化させる必要はないので、健康格差の縮小という表現には違和感がある。

(事務局) SDGs についてはご意見として承った。健康格差については、個人間の問題だけではなく、地域間や経済状況による格差も現状として課題となっており、国・県・市と同一の目標で格差の縮小を掲げているため、佐倉市としても取り組んでいきたいと考えている。

(委員) 大きな目標を掲げても思い通りにならない。健康寿命の延伸についても市の取組が周知されておらず、広報以外の良い周知方法がないのかと思う。

(委員) 私は市民カレッジに通っているが、講義で学ぶまでは健康さくら 21 について私も含めて周りの人はほとんど知らなかった。ただ、学んでからは健康寿命について非常に気にするようになり、卓球クラブやボウリングクラブを始め、月に 1 回のハイキング活動も行っている。健康さくら 21 は非常に良い計画であり、こどもから大人まで実践すればより良い佐倉市になると思うが、市民に知られていないのがもったいないため、周知する施策があったらと思う。

私自身は、1 日 1 万歩、腕立て伏せ 50 回を目標に行っているが、最初はあまり達成できなかった。記録をつける癖をつけるとできるようになったので、良いアイデアがあればと思う。

(委員) IT 技術を駆使したらどうか。今後、人口が減少し職員は少なくなるが、業務は多くなるという悪循環になる。書面を読まない若年層に周知できるだけでなく、市としても広報活動の効果の上昇や効率化が見込めるのではないか。

(委員) ランニングクラブでコーチを行っていて日々感じるのは、仕事を退職した方は健康志向が強いが、30代・40代は運動不足の方が非常に多い。退職してから運動を始めるのではなく、仕事をしている方が運動を習慣とするための広報をすべきである。私は30代だが、新聞をとったことが無く、練習の申し込みもネットで広報も SNS を使用している。

(委員) 広報さくらは新聞折込みか。

(事務局) 新聞折込みの他に、希望者には広報課より送付を行っている。また、市内公共施設で配架及びHPにおいても公開している。

(委員) どのようにしたら市民の手に届くのか年代別に考えてみる必要がある。新聞をとっていないお年寄りが集まる場所に配架するなどの工夫をしてみたらどうか。

(委員) 行政も仕事の幅が広く、担当課の意識と市政全体でアンバランスが出てきている。地域メディアの活用も一つの手である。健康さくら21において一番周知する必要があるのは、どのような事業を行っているかである。日本人の健康に対する考え方として、自分が病気にならないと健康について考えないという意識を改める必要があるのではないか。

また、これからパブリックコメントを実施するということだが、語句の統一をしていただければと思う。

現状値が無いにも関わらず、目標値を設定している項目がある。どのように目標値を設定しているのか。また、現状値が低い項目で目標値が単に「増加」ではいけないのではないか。

(事務局) 昨年度実施した市民健康意識調査で質問の聞き方に違いがあるものや新規の項目は現状値がない項目もある。また、10ページに目標値は国や県の目標項目と同等とするほか、佐倉市の現状を踏まえた値とするという一文を掲載しようと考えている。現状値が低い項目が増加となっている部分については、目標値の設定が難しく大きい数値を設定しても実効性のない数字になってしまうため増加という表現にしている。なお、中間評価で見直しをしたいと考えている。

(委員) 食生活改善推進委員をしているが、関心がある人は毎回参加してくれるが、本当に教えたい人が参加してくれない。広報に掲載して多くの参加者を集めるのは高齢者でも難しい。ただ、地域で参加している集まりでは、口コミで誘うと皆さんが参加してくれる。地道に広めていくことも重要と考える。

(委員) 佐倉市では成人歯科健診と口腔がん検診を行っており、広報等を通じて市民の方に周知し、歯科医院で実施している。実際に口腔がんの方を早期発見することを目標として取り組みを行っている。歯科に関心を持つ方が増加しており、定期的に受診する患者さんも増加し、昔に比べて口腔ケアが向上している。虫歯や歯周病の治療をすることがかなり減っており、皆さんの口腔内が良い状態に保たれている。自分の歯でいつまでも食べられる取り組みを進めているが、市民の皆さんもかなり関心を持って取り組まれている。健康さくら21の取組を進めるうえで皆さんの協力も必要となってくる。

(委員) 毎週金曜日の午前中に体操教室に行っている。今回の会議に出席し、健康が重要だと感じたので今後も継続できればと思う。

(委員) 計画において危機管理対策は非常に重要であると感じた。このような良い取り組みに努めて佐倉市の健康管理がより良くなればと思う。

## 7. その他

今後の健やかまちづくり推進委員会の予定について説明しました。